

* レジデントの言葉 *

2015年4月から埼玉県立がんセンター胸部外科でレジデントとして勤務している中 麻衣子と申します。

3年間の初期研修後に、2人の子供の出産・育児のため一度、医師を辞め、3年間のブランクを経て呼吸器外科医として復職致しました。そこで待っていたものは、卒後年数にしては何も知らなさ過ぎる自分と、何もできない自分と、自信がない自分でした。育児も大事な仕事ですが、ここは一念発起して仕事に没頭できる時間が欲しいと常々思っていた時に、色々な方の支援があり、埼玉県立がんセンターでのレジデント勤務が叶ったという経緯でここにいます。

埼玉県立がんセンター胸部外科は年間300例を超える手術件数を誇り、手術はもちろん、その術前カンファ、周術期管理においてすべて本気で取り組まないと回りません。自分に自信を持てずにすぐに上の先生に助けを求めていた自分がいつしか色んな事を積極的に考え、判断し、行動できるようになりました。手術に関しても、毎日のように手術に携わり、難易度の高い上の先生の手術を実際に間近で見て、適切な症例はどんどん執刀させていただき、本当に有意義な時間を過ごさせてもらっています。現在の胸部外科部長先生は手術のみならず、論文投稿も求める先生ですので、仕事はハードですが、日々成長している自分を感じ、外科医とはこういうものなのだと改めて思い、有意義な時間を過ごしております。まだ勤務して半年も経っていませんが、埼玉県立がんセンターに来たことは正解だったと感謝する毎日です。まだまだ成長途中であり、一人では何も出来ないことの方が多い自分ですが、ここ埼玉県立がんセンターで学んだことを忘れずに、これから先もずっと自分に厳しく仕事を本気で取り組んでいけたらと思います。

最後になりましたが、埼玉県立がんセンターの胸部外科にとっては初のレジデントだったようですが、部長先生をはじめ、上の先生達は皆、仕事には厳しいですが、話しやすい雰囲気先生ばかりで、手術における教育も非常にしっかりしており、若手の呼吸器外科医が勤務する環境としては最適だと感じました。女性でも、育児中でも、ブランクがあっても諦めなければ何でも頑張れると思いますので、興味があれば是非、まずは見学だけにでも来ていただければと思います。